



## 2020年ワールドキャンサーデーにあたって

UICC日本委員会委員長

野田 哲生



ワールドキャンサーデーは、2000年2月4日、パリで開催された「がんサミット」から始まった取り組みです。UICC日本委員会は、日本においてUICCに所属する29の組織や機関をとりまとめ、UICC本部と連携しながら、各種の対がん活動を行ってきましたが、その一環としてこのワールドキャンサーデーの推進には力をいれてきました。

2019年から3年間のキャンペーンとして、「I AM AND I WILL」(私は今、そしてこれから私は)が始まっています。日本からもこのメッセージキャンペーンに参加し、世界と繋がりながら、それぞれの立場から声をあげて、対がん活動をさらに発展させていくことを願い、今年も2月4日にワールドキャンサーデー2020

The Light up the World を、皆さまのご協力の下開催しました。

昨年末にお送りしたワールドキャンサーデー開催のお知らせと連携のお願いに対して、一般社団法人日本乳癌学会を皮切りに、日本対がん協会、国立がん研究センター、千葉県がんセンター、三重大学医学部附属病院、九州がんセンター、がん研究会、一般社団法人アジアがんフォーラムなど、数多くの加盟組織からのご協力や関連イベントのお申し出をいただきました。数多くのメディアにも取り上げていただいて、UICC活動の意義が広く共有していただけたのでは、と感じております。

当日の様子が下記サイトにて動画でUPされておりますのでご報告させていただきます。

【特設サイト】 <https://www.worldcancerday.jp/>

当日は、日本対がん協会 垣添会長、国立がん研究センター 中釜理事長、日本医師会 横倉会長、宮本重門さん、堀ちえみさん、麻倉未稀さん、服部幸應さんらにご参加いただき、それぞれの「I Am and I Will」の力強いメッセージをLIVE配信させていただき、その詳細は本号にてご報告させていただきます。

また、この日はジュネーブ本部と20か国がSkypeでWorld Cancer Day 2020 Live coverageとしてFacebook Liveを行うことになっていたため、18時からのライトアップのLIVE配信への告知も兼ねて、UICC会長HRHプリンセスディナミレッドとのLiveトークを行いました。

【Facebook】 <https://www.facebook.com/worldcancerday/videos/2296456377319262/>

厚生労働省にもご協力をいただき、国際課やがん疾病対策課とも連携して、加藤厚生労働大臣にもご協力いただきました。



本年度は2月4日がWHOの執行理事会の会期中とも重なったため、WHO執行理事会の中谷比呂樹議長が、会議の冒頭にワールドキャンサーデーについて触れられ、がんに対して世界が一致して団結することの重要性について述べていただきました。

会期中、UICCは、NGOとして発言をすることができる貴重な機会も得たようです。

### World Cancer Day at WHO Executive Board Meeting

EXECUTIVE BOARD - 148th session - Video On Demand

UICC本部からのジュネーブ代表部・日本政府への正式な要請により、2月4日のWHO執行理事会冒頭にてワールドキャンサーデーについて言及。

ジュネーブ市内モンペン橋に掲げられたworld cancer dayの旗

また、2017年のWHO総会で提案され、作成の専門家会議にはUICC本部も深くコミットしてきた、World Cancer ReportがWHOより発表されています。

<https://apps.who.int/iris/handle/10665/330745>

このReportに関しては、日本からは、政府からの資金面での貢献に加え、査読者や執筆者として、国際医療研究センターやUICC日本委員会加盟組織である国立がん研究センターから研究者が関わっております。

今回、UICCは20周年を記念して、International Public Opinion Survey on Cancer 2020 reportを出しています。

[https://www.uicc.org/sites/main/files/atoms/files/WCD20\\_IntPublicOpinionPoll\\_Report\\_FA\\_Screen\\_0.pdf](https://www.uicc.org/sites/main/files/atoms/files/WCD20_IntPublicOpinionPoll_Report_FA_Screen_0.pdf)

がんに関わる意識調査で、2019年10月25日から11月25日までに合計15,427人の成人を対象に実施された国際オンライン調査ですが、リスクの認識、予防の実践など、社会経済的背景による格差など多くの課題が浮かび上がってきています。

UICC会長HRHプリンセスディナミレッドは このレポートについて「現在および将来の世界的ながんの負担に取り組むために、国際的ながんコミュニティの政府と意思決定者は、教育や収入のレベルに関係なく、誰もががんリスクを制御するあらゆる機会を確保できるように集まる必要があります。」と述べています。

がんに関する認識を高め、誰も取り残されないように、今後も取り組んでいくことをこのワールドキャンサーデーにおいてUICCとして想いをひとつにしたのです。

私たちUICC日本委員会も、高齢化が進むアジアのがん医療をはじめとする様々な課題に日本の医療の知見がどう活かせるか、がんという病に立ち向かうために、今世界とつながりながら、何ができるのかを皆さまと一緒に考え続けなければならないと次の2021年ワールドキャンサーデーに向けて思いを新たにしました。



### ワールドキャンサーデーレポート (UICC本部HP <https://www.uicc.org/> より)



[https://www.uicc.org/sites/main/files/atoms/files/WCD20\\_ImpactReport\\_FA\\_ENG\\_Screen\\_v6.pdf](https://www.uicc.org/sites/main/files/atoms/files/WCD20_ImpactReport_FA_ENG_Screen_v6.pdf)

(左はインパクトレポートです。日本委員会関連のページは、22p 34p 42pです)

[https://www.uicc.org/sites/main/files/atoms/files/WCD20\\_Government%20Report\\_FA\\_v3.pdf](https://www.uicc.org/sites/main/files/atoms/files/WCD20_Government%20Report_FA_v3.pdf)

(右はガバメントアクションレポートです。日本委員会関連ページは19pです)

# 2020ワールドキャンサーデー ライトアップイベント開催報告

2月4日は世界が一体となって、がんに関する意識と教育を高め、社会や一人ひとりにこの病気に対して行動を起こさせることを目的として、様々な取り組みを行い、また世界各地の夜空がUICCのテーマカラーであるブルーとオレンジでライトアップされる日です。

2019年より、「I AM AND I WILL 私は今、そしてこれから私は」をテーマに、一人ひとりのがんに立ち向かう思いを伝えあうキャンペーンが続けられています。

今年もがんに立ち向かうひとつの瞬間を分かち合うライトアップイベントを行い、7名のゲストとUICC日本委員会委員長には①【I AM AND I WILL】メッセージ、②ライトアップへの思いを語っていただきました。

河原ノリエ UICC日本委員会広報委員長

## 宮本亞門 (演出家)



① 私は前立腺がんのサバイバーです。がんになって、本当にいろんな人に救われて生きてきたんだということを感じました。それを大切に自分にできることを精一杯やっていきたい、これからは多くの人に感動を伝えていきたいと思っています。

② この無数の光が、世界中の人たちがこれをきっかけにお互いのがんで苦しむ人が一人もいなくなる、必ずその日が来るという祈りをこめて、この数が何か世界中を表しているような気がして心がグッときました。海外公演でも、私のがんをご存知の方々から「がんばれ!」と勇気もらい、がんになった人や、いろんな人と話をし、ひとりじゃないんだ、世界中にいるんだ、一緒に超えていこう、と、熱い思いを持ちました。

## 堀ちえみ (タレント)



① 私は舌がんと食道がんのサバイバーです。個人的には歌を歌いたいと思っています。でも、一番やりたいことは、がんを早期に発見して早期に治療をして、皆さんにいい人生を味わっていただきたいと願っております。

② 私の命を救ってくださった医療関係者の皆さん一人ひとりに本当にありがとうございましたということ、沢山の応援や声から励ましをいただき、そのエールで今ここに立つことができ、感謝無量です。本当になんか苦しく、つらい病気です。今戦って頑張っている人たちみんなが笑顔で幸せになれるように祈り、私もこれからも再発をしないように心がけて毎日を笑顔で過ごしていきたいと思っています。

## 麻倉未稀 (歌手) :



① 私は乳がんサバイバーです。私はずっと元気に歌い続けて、がん患者さんのためにもこれから支援を、そして検診の向上を図っていきたくと思っています。

② がんというのは早く見つかれば治るものになってきているということ、皆さんに知っていただきたいです。私も、ピンクリボン藤沢を立ち上げ、早期発見のためにも検診を、と活動を行っています。日本は検診受診率がとても低く、その中でも藤沢市は低いと言われていましたので、検診受診率の向上と、これからは患者さんのためにもいろんな支援をやっていこうと思っています。もちろん歌を通して、このような光の感じで皆さんを癒しながら、がんの癒しをしていければと思っています。

## 服部幸應 (服部学園理事長) :



① 私は服部幸應です。皆さんと共に食生活を改善するために私も頑張りたいと思いますので、皆さんもどうぞ頑張ってください。

② 食生活を通して克服できるものということが必ずあります。例えば農薬や保存料など。問題のある化学物質などがいろいろな形で我々の身体の中に入り込んできています。これをできるだけクリアにできるような食生活を、これから作っていきたくと思っています。安心できるものをできるだけ選んで食べていくようにしましょう。

**横倉義武** (日本医師会会長) :



① 私は日本医師会会長です。人生100年時代、がん医療を地域医療の中で全国の医師会の会員の皆さんと育てていきたいと思います。

② 人生100年時代、国民の2人に1人はがんになる時代。日本は国民皆保険という素晴らしいユニバーサルヘルスカバレッジがあります。それによって早期に診断をし、早期に治療を受けられる。一方で、まだ世界にはユニバーサルヘルスカバレッジのない国も沢山あります。そのような中でしっかりと広めていき、がんを苦しむことのない社会を世界の中で作りあげていかなければならないと思います。全国の医師会の会員・医師の皆さんは、国民の皆さんの命を守るために日々努力をしています。この光のように頑張っていきます。

**垣添忠生** (日本対がん協会会長) :



① 私は日本対がん協会の会長。大腸がん・腎がんのサバイバーです。がんの患者さん、ご家族を全力を尽くして支援して参ります。

② ブルーとオレンジの美しい光。1秒間に世界を7周半するそうです。この光のスピードで、がんの患者さん、家族に支援をし、がんで苦しむ人、がんで悲しむ人が少しでも減るように、努力したいと思います。

**中釜齊** (国立がん研究センター理事長) :



① 私は国立がん研究センター理事長です。私はがんを予防・早期に発見し、一人ひとりの患者さんに最もふさわしい医療を提供し、がんを克服しがんで亡くなることのない社会の実現を目指していきたいと思います。

② がんの医療技術は年々進歩して、治癒率も年々向上しております。一方で、まだまだ治療が困難、治療法が確立できていないがんがあるのも事実です。課題克服のために、研究開発を強化してがんを克服し、全ての患者さんはがんで亡くなることはない、そんな社会の実現を目指すべきだと考えています。全てのがんの患者さん、サバイバーの方々が安心して暮らせる、そういう社会の実現を国民全体と協力をして進めていければと思います。

**野田哲生** (UICC日本委員会委員長) :



① 私は有明のがん研で働いております、日本委員会委員長です。日本だけでなく世界全体の1000を超えるUICCメンバーと一緒に、また日本の、そしてアジアのがん対策のために、頑張っていきたいと思います。

② UICCがワールドキャンサーデーを定めてからちょうど20年経ちました。

昨年もカレッタ汐留にお世話になりました。昨年と今年の違いや今後目指すべきことを考えました。1つめは、会場のライトアップのカラーバリエーションの変化。カラーバリエーションは異なりますが、異なる色を一緒の色に染めて我々が目指すのは、がんの克服です。2つめは、ワンチームという言葉と出会いました。ワンチームで目指すべきことは、がんの予防、一人でもがんの患者さんを減らすこと。がんの治療、一人でも多くの患者さんのがんを治すことです。一番大事な3つめは、一人でも多くのがん患者さんを支えること。がん患者さんがこれからの1年の間、毎日「さあ、今日も頑張るぞ」という気持ちになれるような社会を皆で作っていくこと。この3つを1日1日行い、来年の21年目のワールドキャンサーデーを皆でお祝いできたらいいと思います。

## 西口洋平さんを悼んで



ライトアップイベント終了後に、ゲスト、がんの患者団体・啓発団体、がん医療を支える企業の方々とUICCメンバー・関係者との情報交換会を開催しました。小さな子どもをもつがん患者の団体・一般社団法人がんサポーターズ代表理事西口洋平さんも、「みなさまにお礼を言いたい」と体調の悪いなか参加され、若いがん患者さんの支援の必要性について話されました。お帰りになる際に、「このイベントに参加できてよかった」と笑顔でお別れした西口さんは、この5月8日に、40歳の若さで亡くなりました。ステージ4の胆管がんと診断されて5年。若いがん患者さんたちのために、素晴らしい仕事をされた西口さんを忘れずに、これからもがんに立ち向かっていきたいと思えます。

ライトアップザワールド2020事務局

# ワールドキャンサーデーに対するグローバルな取り組み

アステラス製薬

コーポレート・アドボカシー CSR部長

知原 修

ワールドキャンサーデーは、2000年2月4日にパリで開催された「がん対策サミット」から始まった取り組みで、今年は20周年という節目となりました。日本では、今年もUICC日本委員会の主催により「Light Up the World」イベントがカレッタ汐留にて開催され、私も参加させて頂きました。

今年も医療に従事される先生方や、がんと闘っておられる著名人の方々から、それぞれのお立場でいかにがんに関心を持っていかにかという決意の言葉をお聞きしました。中でも、2019年に舌がんと食道がんの手術を受けられた堀ちえみさんからは、がんを闘うことのつらさ、歌を歌いたいという気持ち、そして皆ががんの早期発見・早期治療をして良い人生を送って欲しいという願いが飾らない言葉で語られ、私の心にもずっしりと響きました。

アステラス製薬は「がんの制圧を目指しがん専門機関や専門家と共同して活動する」というUICCのビジョン・ミッションに共感し、パートナーとしてグローバルに支援・協働させて頂いております。20周年を迎えたワールドキャンサーデーの機会に、海外の多くのアステラスグループ会社も含めて社内外に向けた啓発活動を展

開いたしました。各地域の責任者から社員にメールし、ワールドキャンサーデーの認知度を高め「I AM AND I WILL」のメッセージキャンペーンへの参加を促すとともに、ソーシャルメディアを活用した情報発信を行いました。社員一人一人が、がん治療の進歩に貢献することで、患者さんや自分が愛する人たちの明日を変えるんだというコミットメントを再確認する良い機会を頂いたと思います。

また、2019年10月にカザフスタンで開催されたUICCワールドキャンサーリーダーズサミットにも弊社社員が参加し、WHOなどの関連機関に対してアステラス製薬の医薬品アクセスに対する考え方を紹介させて頂きました。

今後もがん制圧に向けUICCと連携しつつ、研究開発型の製薬企業として革新的ながん治療薬の創出にコミットし続けたいと考えます。



# World Cancer Dayの日本での当社の取り組み

株式会社バリアン メディカル システムズ  
CSR (Corporate Social Responsibility) 委員会リーダー

**柚原 正直**  
(マーケティング部 部長)

当社は「A world without fear of Cancer (がんの脅威に負けない世界の実現)」をビジョンに掲げ、バリアンメディカル システムの全世界で World Cancer Day の活動を支援しております。今年は、CSR 活動の一環として日本において「I AM AND I WILL」(私は今、そしてこれから私は) の取り組みを社内で開催しましたので、報告いたします。

2月4日の World Cancer Day 当日は、Jamie Kebely (Senior Director for Asia Pacific, Government Affairs) らが汐留のイベントに参加する一方、当社日本橋オフィスにて、Kenneth Tan (President, Asia Pacific) はじめ有志が集まり、World Cancer Day イベントの YouTube 配信のパブリックビューイングで視聴し、美しいイルミネーションと UICC の関係者のみなさまのがん対策の熱い想いを共有しました。

2月19日には、当社社員のがん対策への意識向上のために CSR 活動の一環として日本橋本社のオフィスと地方の各拠点を Zoom (リモート会議システム) で繋ぎ、全社イベントを企画しました。冒頭では、日本の社員により伝わりやすくするために翻訳付きの World Cancer Day のビデオを放映し、当社 CEO の Dow Wilson から会社のビジョン実現にむけて、日本の社員にむけた力

強いビデオメッセージを共有しました。第一部として、ワークショップを企画し、グループに分かれて「I AM AND I WILL」について考え、今後積極的に取り組んでいく活動内容をボードにしたため、チームごとに発表しました。現在もオフィスの休憩スペースに展示しております。第2部では、我々自身ががん治療について積極的に学んでいくために、日本の放射線治療のトップランナーである山梨大学医学部放射線医学講座教授の大西洋先生に「がん医療における放射線治療の有用性」についてご講演をいただきました。がん医療において放射線治療を支える我々バリアン社員の職務の重要性についても説いていただき、たくさんの勇気をいただきとても貴重な機会となりました。

同じ志を持つみなさまと協働することで、UICC がリードする World Cancer Day の輪が日本でも広がり、がんの早期発見と一人一人の患者様にあったがん医療が提供できる社会になることを願っております。





# 2020年ワールドキャンサーデーに参加して

(公財) 日本対がん協会  
会長 垣添 忠生

ワールドキャンサーデーの2月4日、日本対がん協会と朝日新聞社が主催の、がんとの共生社会を目指す「ネクストリボンプロジェクト」が品川のザ・グランドホールで開催された。当プロジェクトは、がんになっても生き生きと活動できる社会、がんを自分の問題として考え、早期発見に向けてがん検診を受けることが当たり前になる社会の実現を目指している。

この日は、治療と仕事を両立しながら暮らせる社会のあり方をテーマにしたシンポジウム(写真は中小企業ががんと就労の問題にどう関わるか、というテーマのシンポの様子)と、がんを体験したタレントらが経験や想いを語るトークイベントの2部制で、満席の観客が熱心に聴き入っていた。第2部には宮本亜門さんが登壇。がんがわかってから、治療法を選び、退院後も休みなく仕事を続けてきている経緯をユーモラスに語り、がん経験を通して「生きることが何だろうか」と考えることができた」と生きていくことへの感謝の想いを語った。



私は第1部に参加し、中小企業であっても社長の強い思いがあればがん患者を守り抜くことができる、と言う強いメッセージを受けとめた。

その後、ネクストリボンの会場を抜けて、カレッタ汐留に移動しUICC Japanの「ワールドキャンサーデー」のライトアップの点燈式に参加した。電通の強力なサポートのおかげで、ブルーとオレンジに美しくライトアップされたカレッタの一角は感動的だった。この時私は主催者と共にステージにいたが、周囲の暗闇の中にどんな人が参加しているか全くわからなかった。

点燈式後にカレッタ45Fに移動し、情報交換会に参加すると、実に沢山の患者会、支援団体の皆さんが参加されているのを初めて知って驚いた。と同時に、がん対策を支援し、がん患者・家族・サバイバーを支援するこんなにも厚い活動があることを実感して胸が熱くなった。

がんを巡る状況は確実に変わりつつある!それを実感したワールドキャンサーデーであった。



# WCDについて

千葉県がんセンター研究所  
研究所長 永瀬 浩喜

ワールドキャンサーデー20周年の節目に始めてカレッタ汐留のライトアップイベントに参加させていただきました。UICC のカラーである「ブルー」と「オレンジ」に彩られた鮮やかな美しいイルミネーションとがん経験者、支援団体、研究者の方の熱のこもった言葉の数々に感動し、一日も早くがんで苦しむ人のいない社会にしなければと決意を新たに致しました。千葉県がんセンターでもこの取り組みに協力させていただいています。「私はいま そして これから私は」の取り組みにも、当がんセンターを訪れる人に、カードへの書き込みを呼びかけ、がんに対してそれぞれ一人一人が一隅からがん克服に向けて意識を高め行動に移していただけるようにと外来ホールで配布し、お願いし研究所フェイスブックで公開しました。

千葉県がんセンターには、千葉県試験研究機関として研究所が併設され、広くがんの克服に向けての研究を行うとともに県民一人一人にがんに対する知識と予防、検診の重要性などの啓発活動を行っています。研究所でもフェイスブックやパンフレット、リーフレット、ポスターなどにより様々な取り組みを紹介し、小学生からのがん教育、小中高での出張授業、夏休みには夢チャレンジサイエンススクール、ひらめき☆ときめきサイエンススクールの開催、9月のがん征圧月間には癌講演会、がん予防展、

千葉日報にがんに打ち克つ千葉の2週間にわたる連載記事掲載を行い、10月には一般向け公開セミナーなどを行っています。また千葉県がん登録事業を通して、県内の各地域ごとでのがんの実態を分かりやすく毎年公表することや世界の患者さんやご家族にも分かりやすく患者さんご本人のがんの病態に合わせた生存率を過去の患者さんから学び計算できるKapWebという日本語／英語インターネットサイトを開発、国立がん研究センターと全がん協と共同で毎年アップデートし公開、多くの海外の患者さんにも活用いただいています。

一人もがんで苦しむ方がいなくなるような、そんな社会を目指して千葉県がんセンターでは様々な啓発活動に取り組み、患者さんや県民とのつながりの中で我々研究所職員も新たな力と勇気、思いを頂きがんの治療、診断、予防の研究に取り組んでおります。

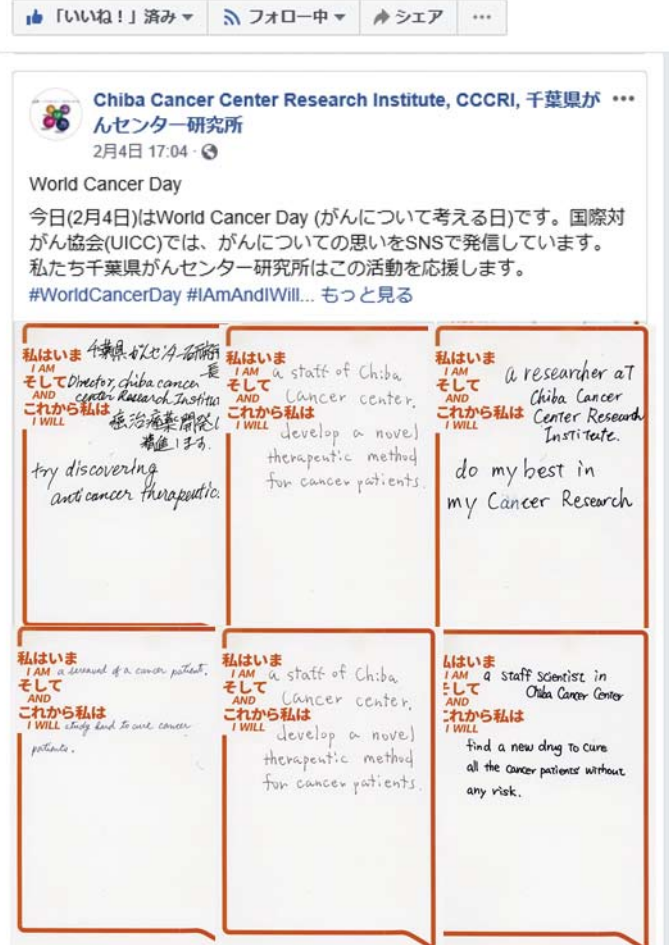


Chiba Cancer Center Research Institute, CCCRI, 千葉県がんセンター研究所

@CCCRI.chiba.gan.kenkyu.jo

- ホーム
- レビュー
- 写真
- 投稿
- ページ情報
- コミュニティ

ページを作成



Chiba Cancer Center Research Institute, CCCRI, 千葉県がんセンター研究所

2月4日 17:04

World Cancer Day

今日(2月4日)はWorld Cancer Day (がんについて考える日)です。国際対がん協会(UICC)では、がんについての思いをSNSで発信しています。私たち千葉県がんセンター研究所はこの活動を応援します。

#WorldCancerDay #IAmAndIWill... もっと見る

私はいま I AM 千葉県がんセンター研究所長 AND そして これから私は I WILL 癌治療研究を推進します。 try discovering and cancer therapeutic.	私はいま I AM a staff of Chiba Cancer center. AND そして これから私は I WILL develop a novel therapeutic method for cancer patients.	私はいま I AM a researcher at Chiba Cancer Center Research Institute. AND そして これから私は I WILL do my best in my Cancer Research
私はいま I AM a survivor of a cancer patient. AND そして これから私は I WILL stay and to cure cancer patients.	私はいま I AM a staff of Chiba Cancer center. AND そして これから私は I WILL develop a novel therapeutic method for cancer patients.	私はいま I AM a staff scientist in Chiba Cancer Center AND そして これから私は I WILL find a new drug to cure all the cancer patients without any risk.

# World Cancer Day 2020 に初参加して

国立病院機構九州がんセンター

院長 藤 也寸志

九州がんセンターは、2016年にUICC日本委員会の仲間に入れていただきました。九州がんセンターは、九州で唯一のがん専門診療・研究施設として昭和47年に設立され、今年で48年を迎えます。初代院長（入江英雄先生）の「病む人の気持を」、そして2代院長（森脇滉先生）の「家族の気持を」を基本理念として発展してきました。この二つの言葉は、九州がんセンターの歴史の中で、現在に至るまで確実に継承されています。私は、2015年に第8代院長に就任しましたが、九州がんセンターを『患者にも家族にもスタッフにも優しい日本をリードするがん専門病院』にするというビジョンを掲げて活動してきました。“地域に根ざしたがんセンター”であるとともに、“日本へ、そして世界に目を向けたがんセンター”になることを目指しています。それが、九州がんセンターの使命でもあると考えています。

その活動の一環として、日本のがん医療・研究のトップリーダーによって運営されているUICC日本委員会への加盟への機会をいただけたことを光栄に思います。そして、今年は初めて、“World Cancer Day（私は今、そしてこれから私は）2020”、さらにUICC-Japan Partners Meetingに参加させていただきました。世界のがん患者さんやご家族に、＜ I AM AND I WILL ＞ のメッセージを伝え、自らの活動の決意を表す素晴らしい機会だと思います。九州がんセンターでも、外来、がん相談支援センターや医局などにポスターやメッセージカードを掲示してメッセージを募りました。（写真をお願いします）九州がんセンターのスタッフにとっても、目の前のがん患者さんやご家族をサポートすることに留まらない、がんの撲滅への新しい視点を持つ契機になったと思います。また、来年の“World Cancer Day 2021”にも参加させていただきます。

九州がんセンターの所在地である福岡市は、アジアに目を向けて発展を続けています。九州がんセンターも、多くのアジアの国々やがん関連施設連との交流を推進して、アジアのがん診療と研究の拠点となりアジアのUniversal Health Coverageの実現に向けて努力していきたいと思っています。皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。



九州がんセンター 初代院長の書

九州がんセンター 2代院長の書



# 「ワールドキャンサーデーとなみ2020」

一般社団法人アジアがんフォーラム  
代表理事 河原 ノリエ

一般社団法人アジアがんフォーラムは富山県砺波市にてワールドキャンサーデーイベント「ワールドキャンサーデーとなみ2020」を開催した。

私は東京の汐留会場の司会担当であったため、当法人のリサーチフェロー・加瀬郁子さんと、地元の東となみロータリークラブ（坂井彦就会長）と庄川町づくり協議会（沖田孝夫会長）が中心となって、三つのイベントを開催していただいた。

市立砺波総合病院では、「I AM AND I WILL」のカードに自らの言葉を書き、がん相談支援センター内に掲示し共有していただき、市立庄川小学校放課後児童クラブにおいては紙芝居（富山弁で作成したがん教育教材）を中心としたがん教育イベントを地元のボランティアの方に行っていただいた。また当法人が地域に開放している「リラの木のいえ」では『経営者が知っておきたい ‘がん’ と経営の話』として、国立がん研究センター・がん情報センター 患者・市民パネルの税理士加瀬明彦氏にロータリークラブの会員を対象に開催いただいた。中小企業経営者ががんに対する正しい理解を持った経営者として価値を発揮し、適切な施策によって企業経営や地域社会の安定化に寄与する助けとなることを目的とした。地方は患者会の組織も都会ほどはつよくなく、がんという

病へのとらえ方も少し違う。そこで今回は、まずは、地域に根差しリーダーシップを担うロータリークラブの組織と地域のがん治療を行う病院を巻き込む取り組みを試みた。

がん関連のイベントは都会で行われることが多いが、地方で、ワールドキャンサーデーという世界と繋がったイベントの一つとして行うことは中央地方格差の解消にとって重要であり、ライトアップイベントの配信は非常に意義があった。

高齢化によって、がんを抱えて残りの人生を過ごす人がどんどん多くなる。がんは人類の有史以来ずっと昔からあったとされているが、これほどまでにこの病を抱えて生き延びるひとが、社会にいることはかつてなかったはずだ。

ひとは、より長い時間生きることで、多様な世代の人たちと、自分の暮らす地域で接しながら生き延びていく。人生100年時代のライフスタイルの道筋を考えた時、がんという病が、地域コミュニティの求心力になることができるのではと思っている。人生100年時代のがん医療は、地域で考える。地域で支える。地域を乗り越える。そんな流れができればと願っている。



生配信された映像は人と人を結びつける。

中小企業経営者のがんは企業経営や従業員の雇用に影響し地域経済にも影を落とす。



がん相談支援センタースタッフ



方言を使い子供たちにがんのしくみを教える地元ボランティア



## UICC 日本委員会加盟組織

愛知県がんセンター	(一社) アジアがんフォーラム	大阪国際がんセンター
神奈川県立がんセンター	がん・感染症センター都立駒込病院	(公財) がん研究会
(公財) がん研究振興財団	(公財) がん集学的治療研究財団	九州がんセンター
国立がん研究センター	埼玉県立がんセンター	(公財) 佐々木研究所
(公財) 札幌がんセミナー	静岡県立静岡がんセンター	(公財) 高松宮妃癌研究基金
千葉県がんセンター	東京慈恵会医科大学	栃木県立がんセンター
新潟県立がんセンター	日本癌学会	(一社) 日本癌治療学会
(公財) 日本対がん協会	(一社) 日本乳癌学会	(特非) 日本肺癌学会
(公社) 日本婦人科腫瘍学会	東札幌病院	(公財) 北海道対がん協会
三重大学医学部附属病院	宮城県がんセンター	

賛助会員 協和キリン株式会社(山極-吉田国際奨学金)  
(公社) 日本放射線腫瘍学会

## UICC日本委員会 2020年役員

委員長	野田 哲生(がん研究会)	UICC 本部	
幹事		Fellowship 委員	中釜 斉(国立がん研究センター)
総務	中釜 斉(国立がん研究センター)	TNM 委員	浅村 尚生(慶応大学医学部)
学術	垣添 忠生(日本対がん協会)	名誉会員	
財務	吉田 和弘(岐阜大学大学院医学系研究科)	井口 潔(元がん集学的治療研究財団)	
ARO担当	野田 哲生(がん研究会)	青木 國雄(元愛知県がんセンター)	
予防・疫学領域担当	浜島 信之(名古屋大学大学院医学系研究科)	富永 祐民(元愛知県がんセンター)	
事務局担当	大野 真司(がん研究会有明病院)	大島 明(元大阪府立成人病センター)	
監事	増井 徹(国立精神・神経医療研究センター)	武藤徹一郎(がん研究会)	
	池田 徳彦(東京医科大学)	北川 知行(がん研究会)	
		田島 和雄(元愛知県がんセンター、三重大学)	
専門委員会委員長		日本委員会事務局(がん研究会内)	
疫学予防委員会	浜島 信之(名古屋大学大学院医学系研究科)	神田 浩明(研究:幹事会担当)	
喫煙対策委員会	望月友美子(前 日本対がん協会)	(埼玉県立がんセンター)	
患者支援委員会	北川 雄光(慶応大学医学部)	関本 敏之(事務:委員長業務補佐)	
TNM委員会	佐野 武(がん研究会有明病院)		
広報委員会	河原 ノリエ(東京大学大学院情報学環)		
小児がん委員会	中川原 章(佐賀国際重粒子線がん治療財団)		
対がん協会	石田 一郎(日本対がん協会)		
UICC-AsiaRegionalOffice (ARO)			
	野田 哲生(がん研究会)		

2021年度のUICC日本委員会総会は  
7月17日(土) 12:00～14:30 経団連会館  
(Web開催の場合 13:00～予定)

UICCホームページ : [www.uicc.org](http://www.uicc.org)  
UICC日本委員会ホームページ : [www.jfcr.or.jp/UICC](http://www.jfcr.or.jp/UICC)  
UICC-AROホームページ : <http://uicc-aro.org/>